

エピソード

『光を混ぜてみよう』

5 歳児 6 月 伏見こども園

A ちゃんと B ちゃんが空き箱の底を切り取り、セロハンテープでふさぎ、テープにペンでいろいろな色を塗り、筒の中に懐中電灯を入れて光らせて遊び始めました。A ちゃんが「暗いところで光らせたい」と話し、みんなでどうすればいいか考え、光らせる場所をつくったことで、同じように空き箱を使ったり、透明のカップに色を塗ったりしたものを懐中電灯で光らせてみて光遊びを楽しむ子が増えていきました。

白い壁だときれいに
見えない(期待外れ)
暗くしたい(願望)



段ボールに黒い
紙を貼るのは
どう?(提案)



黒いところはきれいに
見える!(喜び)



黒い布で屋根にして、洗濯バサミ
で隙間をふさごう(工夫)



屋根にも映るよ
(気づき)

懐中電灯を動かすと
色が変わった(発見)



黒に塗ったのに
ライトをつけると
塗ったところが紫
に見える(不思議)

その後もテープやカップなどの透明のものにペンで色を塗り、映る光や色を楽しんでいました。その中で、「他にも光らせるものあるかな?」と保育者と一緒に教材庫を探しに行き、セロハンを見つけて素材の中に加えました。早速 C くんが卵パックに貼り付けて光らせてみると、セロハンの色(緑・赤・黄)が濃く映りました。C くんが「めっちゃきれい!」と喜んで映していると、隣でヤクルト容器を使って(白に近い黄)光らせていた D ちゃんが「ねえ、光を混ぜてみよう」と C くんに言いました。「いいよ」と C くんがこたえると、C くんが映した光に合わせるように D ちゃんが懐中電灯の向きを変えて光を当てると、C くんが濃い色の光がぼんやりとした光になり「変わった!」と二人で笑顔になり、懐中電灯を動かして、色や光の見え方が変わることを楽しんでいました。



セロハンの光は
濃くてきれい
(新たな気づき)

光を混ぜてみよう
(ひらめき)
(ワクワク)



変わった!(喜び)(面白さ)

子どもの育ちや学び

- ・光がよく見えるためには、暗くした方が良くと考え、段ボールに黒い画用紙を貼った壁をつくったり、黒い布の屋根をつけたりし、光らせる場所をつくる。
- ・光を映す場所や色の塗り方、使う素材をそれぞれの方法で繰り返し映し、光り方や色の見え方を楽しむ。
- ・セロハンを使うことで、光の色の濃さが変わることに気付く。
- ・友達の光と自分の光を重ねてみることで、新たな見え方に気付いたり、喜びや面白さを共有したりする。

保育者の思い

- ・A ちゃんは最初「カーテンを閉めて電気を消して暗くする」と考えていました。保育者は真っ暗になりづらい、他の遊びをしている子もいる、光遊びが十分に遊べる方がいい、と思い、どうすればいいかみんなに投げかけることを A ちゃんに提案しました。
- ・黒い布を使えるようにしたり、子どもと一緒にセロハンを探しにいったりすることで、遊びが展開していくきっかけになればいいなと思い、「こんなものがあるよ」と知らせ、使い方は子ども達が考えられるようにしました。
- ・自分が色をつけたものがどのように光るかを繰り返し楽しんでいましたが、D ちゃんが「光を混ぜてみよう」とやってみたことで、新たな見え方に気づき、面白さを感じていました。色や光のどんなことに興味が広がっていくのか一緒に楽しんでいきたいです。

家庭だったら

- ・同じものを使っても塗る色、光の強さ、映す距離などで見え方が変わるのが不思議で面白いようです。お家だとまた違った暗い場所をつくることができて、いろいろな見え方が楽しめるかもしれませんね。